



## 社会科「単元：個人の尊重と日本国憲法（これからの人権保障）」 3年2組での実践

### 1 本時の授業について

#### ○ 自分の考えをもつ手だて（前時に行いました）

社会の変化（産業や科学技術の発展など）と権利についての自分の考えを蓄積したポートフォリオを活用することによって、日本の治安にAIを導入することに対する自分の考えをもてるようにしました。

#### ○ 仲間と対話をして考えを深める手だて

弁護士（ゲストティーチャー）や教師の助言を参考に、グループで日本の治安にAIを導入することに対して賛成か反対か理由と共に合意形成を目指す、または、合意形成できない場合はその理由をまとめることで、日本の治安にAIを導入することに対する考えを深めることができました。

### 2 授業の様子

前時、日本の治安にAIを導入することに対して賛成か反対かを考えさせると、この単元での自分の考えを蓄積したポートフォリオを活用して、肖像権や個人情報の保護といったプライバシー、表現や移動の自由などの観点から、自分の考えをもつことができました。

グループは、賛成と反対がいるように編成しました。各自の考えをグループ内で発表した後、なかなか理由を示してまとめられないグループが多くありました。しかし、例えば、「キョロキョロ辺りを見ていたことから不審者と間違っただけをAIがしてしまうとどうですか？」と、弁護士が考える視点を与えたことによって、理由を明らかにしてまとめることができたグループが多くありました。

各グループでまとめた内容を発表した後、弁護士による移動、集会、表現の自由や幸福追求権などといった話によって、右のように多くの生徒が考えを深めることができました。生徒だけでなく、弁護士の助言から考えていく（弁護士と協働する）ことで、より考えを深めることができました。



助言する弁護士

AIが日本の治安に導入されることに賛成です。技術も進出し防犯カメラの画像を解析し、犯人を見付けることもできるようになりました。しかし、使い方によっては人権が保証されない場合もあると思います。AIはプログラムされたことしかできないので、臨機応変に対応することができず、間違えることもあると思います。そんなときに人間がAIの言ったことをそのまま信じてしまうと間違えられた人の人権が侵害されるかもしれません。日本の治安にAIを導入することは賛成ですが、AIの言っていることを信じすぎるのも良くないと思います。

生徒の記述例

## 総合的な学習の時間「単元：地域のことを知ろう」 3年8組での実践

### 1 本時の授業について

#### ○ 自分の考えをもつ手だて

採取した中川運河の水について双眼実体顕微鏡を使って調べ、右のようにカードに示された物から選ぶことで、見えた物についての自分の考えをもてるようにしました。

#### ○ 教師と対話をして考えを深める手だて

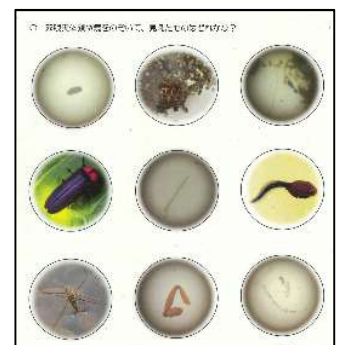
選んだ見えた物について、教師から正しいことを称賛されたり、もう一度確認することを促されたりすることによって、見えた物についての考えを深めることができるようにしました。

### 2 授業の様子

授業の始めに、中川運河のこと、松下閘門や露橋水処理センターなどについて、画像をモニターに映して復習しました。

その後、前時に採取した中川運河の水について、双眼実体顕微鏡を使って調べました。生徒は、興味をもって顕微鏡をのぞき込んで、何度も確認することができました。そして、確認する度にカードに載っている写真を指さして、自分の考えをもつことができました。

指さして正解しているときに、教師から称賛されると、ハイタッチをして喜んでいました。また、違っているときに、もう一度確認するように促されると、すぐに確認することができ、考えを深めることができました。



見えた物を選ぶ学習カード

## 美術科「題材：季節を楽しむ心」 3年2組での実践

### 1 本時の授業について

#### ○ 自分の考えをもつ手だて（第1・2時）

「形」については、和菓子の形、道具の使い方とその道具からつくり出される形について、画像を通して学習しました。「色彩」については、資料集にある「日本の伝統色」を見ることによって、和の色彩について学習しました。これらの知識から、和菓子の形や色彩と自分のイメージにつながる表現についての自分の考えをもつことができるようにしました。

#### ○ 仲間と対話をして考えを深める手だて（第3時～）

和菓子の形を工夫する道具（押し型5種、布、細工ばさみ、棒、網、竹串）や色彩の工夫をする道具（デザインセット）を扱うことにより、和菓子の形や色彩と自分のイメージにつながる材料体験を行いました。その材料体験の様子を動画で撮影し、ロイロノートの共有ノートに「形」と「色彩」の観点で分けて示すことによって、自分のイメージにつながる表現の参考にできるようにしました。

また、材料体験や動画の視聴に加え、実際の制作においても、同じグループの仲間の表現を参考にしたり、教え合ったりすることにより、自分のイメージにつながる表現についての考えを深めることができました。

### 2 授業の様子

第1・2時において、道具の使い方とその道具からつくり出される形について画像を映し出すだけでなく、実際に道具や使い方を見せました。「色彩」についても、資料集を見るだけでなく、右のような画像を見せて、和と洋の違いを感じ取れるようにしました。これらの学習を通して、「形」と道具が結び付いたり、和の色彩が具体的に分かったりして、アイデアスケッチにおいて、和菓子の形や色彩と自分のイメージにつながる表現についての自分の考えをもつことができました。



和と洋の違いが分かる画像

第3時において、自分のイメージに必要な道具を選んで、右の写真のように材料体験をし、その様子を撮影してロイロノートの共有ノートに提出しました。



材料体験をして録画する様子

第4時からの制作では、前時に撮影した動画を視聴して、自分の表現の参考にできるように、その動画を「形」と「色彩」の観点で分けて示しました。生徒は必要に応じて動画を見て、自分のイメージにつながるように、道具を利用したり、色彩を工夫したりしていました。また、友達と道具の使い方や色の混ぜ方について話をして制作する様子も見られました。そういった活動を通して、自分の考えを見直して、作品を仕上げる生徒が多くおり、自分の考えを深めることができました。この実践では、「自分の考えをもつ」「対話をして考えを深める」が1単位時間で行われるのではなく、数時間に渡って行われており、このような授業構成は今後の参考にしていきたいと考えます。